

1 分詞の基本と名詞修飾

1-1 現在分詞による名詞修飾

1-1-1 前置修飾

- (1) 正解④:これは、社会の増大する需要による
ところもある。

解説:demand「需要」が「増大している」という能動・進行の関係なので、現在分詞 growing を用いる。growing demand 「増大する需要」の形。

- (2) 正解④:その会社は生産費の増大に直面している。

解説:costs「費用」が「増大している」という関係なので、現在分詞 growing を用いる。growing costs「増大する費用」の意味。

- (3) 正解③:眠っている赤ちゃんの近くで音を立ててはいけません。

解説:baby が「眠っている」という能動・進行の関係なので、現在分詞 sleeping を用いる。sleeping baby「眠っている赤ちゃん」の形。

- (4) 正解③:労働者たちは物価の上昇に迫いつくため、より高い賃金を求めている。

解説:prices が「上昇している」という関係なので、現在分詞 rising を用いる。rising prices「上昇する物価」の意味。

- (5) 正解④:転がる石には苔が生えない。

解説:stone が「転がる」という能動関係なので、現在分詞 rolling を用いる。A rolling stone gathers no moss. はことわざ。

- (6) 正解③:ホワイト夫人は眠っている赤ちゃんの顔を見るのが大好きだ。

解説:baby が「眠っている」という関係なので、現在分詞 sleeping を用いる。asleep は叙述用法が基本なので、名詞の前では sleeping を用いる。

1-1-2 後置修飾

- (7) 正解②:500人以上の乗客を乗せた船が行方不明になっている。

解説:ship と carry は「船が乗客を運ぶ」という能動関係なので、現在分詞 carrying を用いる。carrying more than 500 passengers が A ship を後ろから修飾する。

- (8) 正解②:通りの向こう側を歩いているあの男性は私の隣人です。

解説:That man が「歩いている」という能動関係なので、現在分詞 walking を用いる。walking across the street が man を後置修飾する。

- (9) 正解③:昨日、中国に住んでいる私の友人が会議に出席するため東京に来た。

解説:a friend of mine が「中国に住んでいる」という能動関係なので、現在分詞 living を用いる。living in China が friend を修飾する。

- (10) 正解②:バスを待っていた男性は腹を立てた。

解説:The man が「バスを待っている」という能動関係なので、現在分詞 waiting を用いる。waiting for the bus が man を後ろから修飾する。

1-2 過去分詞による名詞修飾

1-2-1 前置修飾

- (11) 正解③:その大工は壊れた椅子を修理した。

解説:chair は「壊す」のではなく「壊された」という受動・完了の関係なので、過去分詞 broken を用いる。broken chair「壊れた椅子」の形。

- (12) 正解③:「クリスがスキー事故に遭ったのを知っている?」「うん。脚を骨折しているけれど、大丈夫だと思うよ。」

解説:leg は「折る」のではなく「折れた」状態なので、過去分詞 broken を用いる。a broken leg「骨折した脚」の意味。

1-2-2 後置修飾

- (13) 正解①:カナダで話されている主な言語は英語とフランス語である。

解説:languages と speak は「言語が話される」という受動関係なので、過去分詞 spoken を用いる。spoken in Canada が languages を後置修飾する。

- (14) 正解②:二言語を話す両親に育てられた子どもは、自然に二つの言語を習得することがある。

解説:Children は「育てる」のではなく「育てられる」ので、過去分詞 brought up を用いる。brought up by ～「～によって育てられた」の形。

- (15) 正解①:ニュージーランドで話されている言語は主に英語である。

解説:language と speak は受動関係なので、過去分詞 spoken を用いる。spoken in New Zealand が language を修飾する。

- (16) 正解②:二言語を話す両親に育てられた子どもは、自然に二つの言語を習得することがある。

解説:Children は「育てられる」側なので、過去分詞 brought up を用いる。Children who are brought up ～の who are が省略された形と考えられる。

- (17) 正解①:私は1週間前に書かれた手紙を受け取った。

解説:a letter は「書く」のではなく「書かれた」ものなので、過去分詞 written を用いる。written one week ago が letter を後置修飾する。

- (18) 正解②:その事故で負傷した男性は病院へ運ばれた。

解説:The man は「傷つける」のではなく「負傷した」側なので、過去分詞 injured を用いる。injured in the accident が man を修飾する。

- (19) 正解③:今学期の歴史の本は、先学期に使われた本と似ている。

解説:books は「使う」のではなく「使われる」ものなので、過去分詞 used を用いる。used last semester が books を後ろから修飾する。

1-3 感情を表す分詞形容詞

補語になる場合

- (20) 正解③:学生たちは実験の予想外の結果に驚いた。

解説:主語 The students は「驚かせる」側ではなく驚く人なので、過去分詞形容詞 surprised を用いる。be surprised at A「Aに驚く」の形。

- (21) 正解②:実験の結果は非常に驚くべきものだったので、誰も何と言えよいか分からなかった。

解説:主語 The result は人を「驚かせるもの」なので、現在分詞形容詞 surprising を用いる。人の感情は -ed、感情を起こさせるものは -ing が基本。

- (22) 正解③:私は困難な状況で暮らす子どもたちについてのドキュメンタリーに深く感動した。

解説:主語 I は「感動させられた」側なので、過去分詞形容詞 moved を用いる。be moved by A「Aに感動する」の形。

- (23) 正解②:そのドキュメンタリーは非常に感動的だったので、観客の多くが涙を流した。

解説:The documentary が人を「感動させるもの」なので、現在分詞形容詞 moving を用いる。moving「感動的な」の意味。

- (24) 正解③:多くの学生が、人工知能を教育にどのように利用できるかを学ぶことに興味を持っている。

解説:主語 Many students は「興味を持つ人」なので、過去分詞形容詞 interested を用いる。be interested in doing「～することに興味がある」の形。

分詞

(25) 正解②:その講義は非常に興味深かった
ので、学生たちは授業後も質問を続けた。

解説:The lecture が人に興味を「抱かせるもの」なので、現在分詞形容詞 interesting を用いる。interesting「興味深い」の意味。

(26) 正解③:私たちは、その若い選手がけがから非常に早く回復したことに驚いた。

解説:主語 We は「驚く人」なので、過去分詞形容詞 amazed を用いる。be amazed at A「Aに驚く」の形。

(27) 正解②:その若い選手がけがから回復した速さは、本当に驚くべきものだった。

解説:The speed が人を「驚かせるもの」なので、現在分詞形容詞 amazing を用いる。amazing「驚くべき」の意味。

名詞を修飾する場合

(28) 正解②:教授は人工知能の発達について興味深い講義をしてくれた。

解説:lecture は人に興味を抱かせるものなので、interesting を用いる。an interesting lecture「興味深い講義」の形。

(29) 正解③:興味を持った学生たちは、講義の後で教授にいくつか質問をした。

解説:students は興味を「持っている人」なので、interested を用いる。interested students「興味を持った学生」の意味。

(30) 正解②:その科学者は、人間の脳についての理解を変える驚くべき発見をした。

解説:discovery は人を驚かせるものなので、amazing を用いる。an amazing discovery「驚くべき発見」の形。

(31) 正解③:驚いた観客は、演奏が終わった後、数秒間黙ったままだった。

解説:audience は「驚いた人々」を表すので、過去分詞形容詞 amazed を用いる。

amazed audience「驚いた観客」の意味。

1-4 V-ing の用法の識別

(32) 正解③

解説:standing by the window は The girl を後ろから修飾する現在分詞。

③ standing behind Mr. Brown も The man を修飾する現在分詞で同じ用法。①は動名詞、②は分詞構文、④ standing は名詞である。

(33) 正解③

解説:Reading English newspapers ~ は文の主語となる動名詞。③ reading mystery novels も補語となる動名詞で、いずれも名詞の働きをする。①は現在分詞、②は分詞構文、④ reading は普通名詞である。

(34) 正解④

解説:The building の building は「建物」を表す普通名詞。④ The building も同じく普通名詞である。①は動名詞、②は進行形の現在分詞、③は分詞構文である。

(35) 正解③

解説:Hearing the strange noise は「奇妙な音を聞いて」という分詞構文。③ Hearing the news も分詞構文で同じ用法。①と④は名詞、②は名詞を修飾する現在分詞である。

(36) 正解③

解説:waiting は keep him waiting の目的格補語となる現在分詞。③ find several people waiting も waiting が目的格補語となる同じ用法。①は動名詞、②は名詞修飾、④は分詞構文である。

(37) 正解③

解説:playing は remained の後ろで主語 The children の状態を説明する主格補語。③も同じく remained playing の形。①は動名詞、②は名詞修飾、④は分詞

構文である。

1-5 Ved の用法の識別

(38) 正解③

解説:spoken in this region は The language を後ろから修飾する過去分詞。

③ spoken by the old man も The words を修飾する過去分詞で同じ用法。

①は分詞構文、②は受動態、④は目的格補語である。

(39) 正解③

解説:surprised は looked の後ろで主語 She の状態を説明する主格補語。③ remained surprised も surprised が主格補語となる同じ用法。①は名詞修飾、②は分詞構文、④ surprised は動詞の過去形である。

(40) 正解④

解説:locked は found the door locked の目的格補語で、「ドアが鍵をかけられた状態」を表す。④ keep the door locked も locked が目的格補語となる同じ用法。①は名詞修飾、②は分詞構文、③は主格補語である。

2 There be S + 分詞

2-1 There be S doing

(41) 正解③:そのとき、パレードが通り過ぎていたところだった。

解説:There be + S + doing は「～している S がいる・ある」の形で、going by が a parade を後ろから修飾する。parade と go は「パレードが通り過ぎる」という能動関係なので、現在分詞 going を用いる。

(42) 正解③:道路を一人で歩いている若い少女がいた。

解説:There was の後ろの a young girl を walking alone on the road が後置修飾している。girl が walk するという能動関係なので、現在分詞 walking が

正しい。

2-2 There be S done

(43) 正解③:遠くて恐ろしい音が聞こえた。

解説:a frightening sound と hear は「音が聞かれる」という受動関係なので、過去分詞 heard を用いる。There be + S + done で「～された S がある」という形になる。

(44) 正解③:ロッカールームに高価な腕時計が置き忘れられていた。

解説:an expensive watch は leave する側ではなく「置き忘れられた」ものなので、過去分詞 left を用いる。left in the locker room が watch を後ろから修飾している。

(45) 正解③:かごの中にはパンが残っていない。

解説:bread と leave は「パンが残される」という受動関係なので、過去分詞 left を用いる。There is no + 名詞 + done で「～された名詞はない」という形になる。

3 補語になる分詞

3-1 主格補語になる分詞

(46) 正解①:私が歌うよう頼んだとき、ジョージは恥ずかしそうに見えた。

解説:look は「～のように見える」の意味で SVC をとり、空所には George の状態を説明する補語が必要である。George は「恥ずかしく感じた人」なので、過去分詞形容詞 embarrassed を用いる。

(47) 正解③:彼女は子どもたちに囲まれて座っていた。

解説:sit の後ろで主語 She の状態を説明する補語が必要で、She は children に「囲まれる」側である。したがって、受動関係を表す surrounded by ～「～に囲まれて」を用いる。

(48) 正解③:2、3 分の間、座ったままできてく

分詞

解説:remain は「～の状態のままでいる」の意味で SVC をとり、主語 you の状態を表す補語が必要である。seated は「座っている」という状態を表し、remain seated 「座ったままでいる」となる。

- (49) 正解①:その老人は長旅ですっかり疲れ、くつろいでソファに横たわっていた。

解説:lay の後ろには主語 The old man の状態を説明する補語が置かれている。「くつろいだ状態」を表すので、過去分詞形容詞 relaxed を用いる。

- (50) 正解③:学生たちは試験日程の突然の変更に驚いているようだった。

解説:seem は SVC をとり、空所には The students の感情を表す補語が必要である。students は「驚いた人」なので、感情を表す過去分詞形容詞 surprised を用いる。

- (51) 正解③:彼女は自分が見たものに衝撃を受けたようだったが、それについて何も言わなかった。

解説:appear は「～のように見える」の意味で SVC をとり、主語 She の状態を説明する補語を置く。She は衝撃を「受けた」側なので、過去分詞形容詞 shocked が正しい。

4 目的格補語になる分詞

4-1 keep O doing / done

- (52) 正解③:私たちが待っている間、運転手はエンジンをかけたままにしていた。

解説:keep+O+doing は「O を～している状態にしておく」の意味。the engine が run するという能動関係なので、目的格補語には現在分詞 running を用いる。

- (53) 正解④:私は彼のひどい状況に目をつぶっていることはできない。

解説:keep+O+done は「O を～された状態にしておく」の形で、my eyes と

close は「目が閉じられる」という受動・状態の関係である。したがって keep my eyes closed となる。

- (54) 正解③:こんなに長くあなたを待たせてしまって申し訳ありません。

解説:keep+O+doing「O を～し続けさせる」の形で、you が wait するという能動関係である。したがって、目的格補語には現在分詞 waiting を用いる。

- (55) 正解①:私としては計画を変更したいです。あなたの考えについて私に知らせておいてください。

解説:keep+O+done で「O を～された状態にしておく」の意味。me は inform する側ではなく「知らされる」側なので、keep me informed「私に知らせておく」となる。

- (56) 正解③:こんなに長くあなたを待たせてしまって申し訳ありません。

解説:keep you の後ろには、you がどのような状態に置かれていたかを示す目的格補語が必要である。you が wait するという能動関係なので、keep+O+waiting の形を用いる。

- (57) 正解①:状況に何か変化があれば、私に知らせておいてください。

解説:me と inform は「私が知らされる」という受動関係なので、過去分詞 informed を用いる。keep O informed of A「O に A について知らせておく」は重要表現。

4-2 find O doing / done

- (58) 正解③:部屋に入ると、私は数人の学生が試験勉強をしているのを見つけた。

解説:find+O+doing「O が～しているのを見つける」の形。several students が study するという能動関係なので、目的格補語には現在分詞 studying を用いる。

(59) 正解③: 駅に着くと、工事のため入口が閉鎖されているのが分かった。

解説: find + O + done「O が～された状態だと分かる」の形。the entrance は close する側ではなく「閉じられた」状態なので、過去分詞 closed を用いる。

4-3 get O doing / done

(60) 正解②: そのおかしい話で、すぐにテーブルを囲んでいた全員が笑い出した。

解説: get + O + doing「O を～し始めさせる」の形で、everyone が laugh するという能動関係である。したがって、目的格補語には現在分詞 laughing を用いる。

(61) 正解③: 明日のプレゼンテーションまでにコンピューターを修理してもらう必要がある。

解説: get + O + done「O を～してもらう」の形。my computer は repair する側ではなく「修理される」側なので、過去分詞 repaired を用いる。

4-4 have O doing / done

(62) 正解①: 先生は午後の間ずっと、生徒全員にそのプロジェクトに取り組ませていた。

解説: have + O + doing は「O に～し続けさせる」の意味で、継続する動作を表す。all the students が work するという能動関係なので、現在分詞 working を用いる。

(63) 正解③: 私は昨日、駅の近くの店で自転車を修理してもらった。

解説: have + O + done「O を～してもらう」の形で、my bicycle と repair は受動関係である。したがって、目的格補語には過去分詞 repaired を用いる。

4-5 leave O doing / done

(64) 正解③: 誰かが 2 階の浴槽の水を出しっぱなしにしていたと知り、私は驚いた。

解説: leave + O + doing「O を～しているままにしておく」の形。the water が run するという能動関係なので、現在分詞

running を用いる。

(65) 正解③: 外出するとき、ドアの鍵を開けたままにしておけません。

解説: leave + O + done「O を～された状態のままにしておく」の形。door と unlock は受動・状態の関係なので、過去分詞 unlocked を用いる。

4-6 want O done

(66) 正解②: 私は家具をすべてすぐに家へ運んでもらいたい。

解説: want + O + done「O を～してもらいたい」の形。all of the furniture は take する側ではなく「運ばれる」側なので、過去分詞 taken を用いる。

(67) 正解②: その事実を全員に知らせる必要がある。

解説: make + O + done では O と C が受動関係になり、the fact は「知られる」側なので過去分詞 known を用いる。make the fact known「その事実を知らせる」の形。

4-7 need O done

(68) 正解③: 会議が始まる前に、すべての書類を準備してもらう必要がある。

解説: need + O + done「O を～してもらう必要がある」の形。all the documents と prepare は受動関係なので、過去分詞 prepared を用いる。

4-8 make O V / make O C

(69) 正解①: 先生は生徒たちにもう一度その練習問題をさせた。

解説: 使役の make + O + 原形「O に～させる」の形なので、students の後ろには原形

を置く。能動態では *make O to* 解説 とはしない点に注意。

(70) 正解②: その知らせで、全員が会社の将来を心配するようになった。

分詞

解説:make は make+O+C「O を C の状態にする」の形もと、空所には everyone の状態を表す補語が必要である。「心配している」という状態なので worried を用いる。

4-9 知覚動詞+O+doing

(71) 正解①:私は彼が浴室で歌を歌っているのを聞いた。

解説:hear+O+doing「O が～しているのを聞く」の形で、him が sing するという能動関係である。したがって、進行中の動作を表す現在分詞 singing を用いる。

(72) 正解①:青空高く鳥が飛んでいるのを見て、私はうれしかった。

解説:see+O+doing「O が～しているのを見る」の形。birds が fly するという能動関係なので、現在分詞 flying を用い、fly high「高く飛ぶ」とする。

(73) 正解②:昨夜窓の外を見ると、猫が隣家の庭へ忍び込んでいるのが見えた。

解説:see+O+doing の形で、a cat が sneak するという能動関係である。目撃した進行中の動作を表すため、現在分詞 sneaking を用いる。

(74) 正解④:その歌がフランス語で歌われるのを聞いたことがありますか。

解説:that song と sing は「歌が歌われる」という受動関係なので、知覚動詞 hear の目的格補語には過去分詞 sung を用いる。hear+O+done の形。

(75) 正解④:母は客が自分のケーキを夢中で食べているのを見て喜んだ。

解説:see+O+doing の形で、her guest が eat するという能動関係である。進行中の動作を表すため、現在分詞 eating を用いる。

4-10 知覚動詞+O+done

(76) 正解③:私は眠っている間に自分の名前

が呼ばれるのを聞いた。

解説:hear+O+done「O が～されるのを聞く」の形。my name は call する側ではなく「呼ばれる」側なので、過去分詞 called を用いる。

(77) 正解③:私は負傷した男子生徒たちが病院へ運ばれるのを見た。

解説:see+O+done の形で、the injured schoolboys と carry は受動関係である。したがって、「運ばれる」の意味を表す過去分詞 carried を用いる。

(78) 正解②:正直は最善の策だとよく言われるのを耳にする。

解説:hear+it+done+that 節の形で、形式目的語 it と say は「言われる」という受動関係である。したがって hear it said that ～「～だと言われるのを聞く」となる。

(79) 正解③:辞書では psychology という語が P の項に載っているのが分かるでしょう。

解説:find+O+done「O が～された状態であると分かる」の形。the word "psychology" は list される側なので、過去分詞 listed を用いる。

(80) 正解③:教室がとてもうさかったので、自分の名前が呼ばれるのが聞こえなかった。

解説:my name と call は「名前が呼ばれる」という受動関係なので、hear+O+過去分詞を用いる。したがって hear my name called とする。

(81) 正解①:彼女は手ごわい女性実業家だと言われているのを聞いたことがある。

解説:hear it said that ～「～だと言われるのを聞く」という形式目的語 it を用いた構文である。it は that 節を受け、it と say が受動関係なので it said とする。

4-11 知覚動詞の受動態<S be 過去分詞 V-ing>

(82) 正解②:彼女はボーイフレンドと劇場へ入

っていくところを目撃された。

解説:能動態の see+O+doing を受動態にした S+be seen+doing の形である。She が go するという能動関係なので、現在分詞 going を用いる。

- (83) 正解③:彼はこっそり逃げようとしたが、家から出てくるところを目撃された。

解説:S+be seen+doing「S が～しているところを見られる」の形で、he が come するという能動関係である。したがって現在分詞 coming を用いる。

- (84) 正解②:彼女はボーイフレンドと劇場へ入っていくところを目撃された。

解説:知覚動詞 see の受動態で、S+be seen+doing の形をとる。She 自身が go するので、過去分詞 gone ではなく現在分詞 going が正しい。

- (85) 正解①:その泥棒はホテルからテレビを盗んでいるところを捕まった。

解説:catch+O+doing「O が～しているところを捕まえる」の受動態で、S+be caught+doing となる。The thief が steal するので stealing を用いる。

- (86) 正解③:早朝、2 階で警報が鳴っているのが聞かれた。

解説:S+be heard+doing「S が～しているのを聞かれる」の形。The alarm が ring するという能動関係なので、現在分詞 ringing を用いる。

- (87) 正解④:彼は家から出ていくところを目撃された。

解説:S+be seen+doing の形で、He が go するという能動関係を表す。進行中の動作を表すので、現在分詞 going が正しい。

5 make oneself+過去分詞

5-1 make oneself understood

- (88) 正解④:私は英語で自分の言うことを理解

してもらうことができなかった。

解説:make oneself understood「自分の言うことを理解してもらう」という重要表現である。oneself は understand する側ではなく「理解される」側なので、過去分詞 understood を用いる。

- (89) 正解②:部屋がひどくうるさかったので、私は自分の声を聞いてもらうことができなかった。

解説:make oneself heard「自分の声を相手に聞こえるようにする」の形で、myself と hear は受動関係である。したがって、目的格補語には過去分詞 heard を用いる。

- (90) 正解③:英語で自分の言うことを理解してもらえますか。

解説:make+O+過去分詞で「O を～された状態にする」の意味になり、yourself は「理解される」側である。したがって make yourself understood が正しい。

- (91) 正解④:英語で自分の言うことを理解してもらえますか。

解説:yourself と understand は受動関係なので、原形 understand ではなく過去分詞 understood を用いる。make oneself understood in English は「英語で意思を通じさせる」の意味。

5-2 make oneself heard

- (92) 正解④:通りの騒音がひどくて、私は自分の声を聞いてもらうことができなかった。

解説:make oneself heard「自分の声を聞いてもらう」という定型表現で、oneself と hear は受動関係である。そのため、目的格補語には過去分詞 heard を用いる。

- (93) 正解②:交通騒音がひどく、警官は自分の声を聞いてもらうことができなかった。

解説:make himself の後ろにはhimself の状態を示す目的格補語が必要で、

himself は「聞かれる」側である。したがって make himself heard となる。

- (94) 正解④:その少年は助けを求めて叫んだが、自分の声を聞いてもらえなかった。

解説:「自分の声を聞いてもらう」は make oneself heard で表す。主語が The boy なので再帰代名詞は himself となり、make himself heard が正しい。

5-3 形式目的語 it — C の形

- (95) 正解③:健康を維持するには定期的な運動が重要だと言われるのを、私たちはよく耳にする。

解説:hear+it+C+that 節の形で、it は that 節を受ける形式目的語である。it と say は「それが言われる」という受動関係なので、C には過去分詞 said を用いる。

- (96) 正解③:非常に多くの若者が日本の伝統文化に興味を持っていることを、私は驚くべきことだと思う。

解説:find+it+C+that 節「～ということを C だと思う」の形で、it は形式目的語である。that 節の内容が人を「驚かせる」ものなので、C には形容詞 surprising を用いる。

- (97) 正解③:子どもが外国語を非常に速く習得できることを、多くの人は興味深いと考えている。

解説:consider+it+C+that 節「～ということを C だと考える」の形で、that 節が真の目的語である。その内容が「興味深い」ので、interested ではなく interesting を用いる。

6 分詞構文

6-1 分詞構文の基本—doing

- (98) 正解①:大都市の出身なので、私は街の騒音をそれほど気にしない。

解説:分詞構文では、主節と意味上の主語が同じなら副詞節の主語を省略し、能動関係なら V-ing を用いる。I が come

from a big city なので、Coming from ～となる。

- (99) 正解②:アンは物音を聞いて、階下へ行った。

解説:Ann が hear するという能動関係なので、現在分詞 hearing を用いる。Ann, hearing a noise, ～ は「物音を聞いて」という時・理由を表す分詞構文。

- (100) 正解①:まったく同じ仕事をしているので、彼は私の状況をよりよく理解している。

解説:分詞構文の意味上の主語は主節の he で、he が do the same job という能動関係である。したがって、現在分詞 Doing で始める。

- (101) 正解③:私はいつも海の景色を楽しみながら、浜辺で犬を散歩させる。

解説:主節の主語 I が enjoy するという能動関係で、主節の動作とほぼ同時に行われる付帯状況を表す。したがって enjoying the sea view とする。

- (102) 正解①:ベルを聞いて、受験者たちは終了の時間だと分かった。

解説:the examinees が hear the bell するという能動関係なので、現在分詞 Hearing を用いる。Hearing the bell が「ベルを聞いて」という時・理由を表す。

- (103) 正解②:非常に困難な状況で働いていたので、その医師には休む暇がまったくなかった。

解説:主節の主語 the doctor が work するという能動関係なので、現在分詞 Working を用いる。Working in ～ が理由・状況を表す分詞構文となる。

6-2 Seeing ～ / Seen ～—能動・受動の識別

- (104) 正解①:遠くからその山を見て、私たちはその美しさに感動した。

解説:分詞構文の意味上の主語 we が the

mountain を「見る」ので、see とは能動関係である。したがって、現在分詞 Seeing the mountain ～を用いる。

- (105) 正解②: 遠くから見ると、その山は眠っている動物のように見える。

解説: 主節の主語 the mountain は「見る」のではなく「見られる」側なので、see とは受動関係である。Being seen の Being を省略して Seen from a distance とする。

- (106) 正解①: 丘の頂上からその都市を見ると、私たちは中心部全体を眼下に見渡すことができた。

解説: 主節の主語 we が the city を見るので、see とは能動関係になっている。したがって過去分詞 Seen ではなく、現在分詞 Seeing を用いる。

6-3 否定の分詞構文—not doing

- (107) 正解③: 何と言えよいか分からなかったもので、私は黙っていた。

解説: 分詞構文を否定するときは、not を分詞の直前に置くのが原則である。I did not know ～ を分詞構文にすると Not knowing ～となり、Knowing not とはしない。

- (108) 正解②: 何と言えよいか分からなかったもので、私は黙ったままでいた。

解説: 主節の主語 I が know するという能動関係なので knowing を用い、その動作を否定する not を直前に置く。したがって Not knowing what to say が正しい。

- (109) 正解①: どのように勉強すればよいか分からなかったもので、学生たちは指導教員の研究室を訪れることにした。

解説: the students が know するという能動関係で、その内容が否定されているので not + V-ing の形にする。したがって Not knowing how to study となる。

- (110) 正解④: どの科目を取ればよいか分から

なかったもので、私は助言を求めることにした。

解説: 文頭にすでに Not があるため、空所には know の現在分詞 knowing を入れる。Not knowing which course to take が否定の分詞構文の正しい語順。

- (111) 正解③: 10 年ほど彼女に会っていなかったもので、私は最初彼女だと分からなかった。

解説: 「彼女に会っていなかった」ことが「見分けられなかった」より前から続いているので、完了形の分詞構文を用いる。否定語 not の後ろは having seen となり、not having seen ～ とする。

- (112) 正解③: ほかに買うものがなかったので、彼女は店を出た。

解説: 否定の完了分詞構文では not + having + 過去分詞 の語順をとる。ここでは have anything else to buy を否定するので、Not having anything else to buy となる。

- (113) 正解④: アリスはその本をどこで見つけられよいか分からなかったもので、母親に尋ねた。

解説: Alice が know するという能動関係で、その内容が否定されているので not knowing を用いる。カンマで挟まれた部分が理由を表す分詞構文となる。

6-4 完了分詞構文—having done

- (114) 正解③: 仕事を終えて、ピーターは家に帰り、長い熱いシャワーを浴びた。

解説: 「仕事を終える」ことが「帰宅する」より先に完了しているので、having + 過去分詞を用いる。したがって Having finished his work となる。

- (115) 正解②: お金をなくしてしまったので、ジョンは昼食代を払うことができなかった。

解説: 「お金をなくす」が「払えなかった」より前の出来事なので、完了分詞構文 Having lost を用いる。主節の John が lose するため能動関係である。

- (116) 正解③: 以前その冗談を聞いたことがあったので、2 回目には面白いと思わなかった。
解説:「以前聞いた」ことが主節の didn't find より前なので、普通の Hearing ではなく Having heard を用いる。having done は主節より前の出来事を明確に表す。
- (117) 正解③: グアムに長い間住んでいたの、彼女は熱帯の気候に慣れている。
解説:「長い間住んでいた」という経験が現在の is used to の背景となっているため、完了分詞構文を用いる。したがって Having lived in Guam ～ が正しい。
- (118) 正解④: 宿題を終えたので、私はようやくテレビを見ることができた。
解説:「宿題をする」が「テレビを見る」より前に完了しているため、Having done my homework とする。Being done では「宿題をされる」という受動の意味になってしまう。
- (119) 正解④: 一日中農場で働いたので、彼はすっかり疲れ果てていた。
解説:「一日中働いた」ことが疲労の原因として主節より前にあるので、完了分詞構文 Having worked を用いる。he が work するため能動関係である。

6-5 受動態の分詞構文

- (120) 正解②: やさしい日本語で書かれているので、この教科書は小学生に適している。
解説: 主節の主語 this textbook は write する側ではなく「書かれる」側なので、過去分詞 Written を用いる。Being written ～の Being が省略された受動の分詞構文。
- (121) 正解④: 正面から見ると、その建物は古い日本の城のように見える。
解説: the building は「見る」のではなく「見られる」側なので、see とは受動関係である。したがって Seen from the front とし、Being seen の Being は省略されている。
- (122) 正解③: 飛行機から見ると、その湖は巨大なドーナツのように見える。
解説: 主節の主語 the lake は「見られる」対象なので、現在分詞 Seeing ではなく過去分詞 Seen を用いる。Seen from the airplane は受動の分詞構文。
- (123) 正解③: 私の車は塗装され磨かれたので、新車のように見える。
解説: My car は paint / polish される側で、さらにその処置が looks より前に完了している。したがって完了受動(having been + 過去分詞)の having been painted and polished を用いる。
- (124) 正解②: 飛行機から見ると、その島々はとても美しかった。
解説: the islands は「見る」側ではなく「見られる」側なので、see とは受動関係である。したがって Seen from the plane という過去分詞で始まる分詞構文になる。
- (125) 正解②: 少なくとも他社と比較すれば、わが社は便利な場所にある。
解説: ours は「比較する」側ではなく「他社と比較される」側なので、過去分詞 compared を用いる。compared with A「Aと比較すると」は重要表現。
- (126) 正解②: 飛行機から見ると、その島々はとても美しかった。
解説: 主節の the islands と see は受動関係なので、過去分詞 Seen が正しい。To be seen は不定詞となり、ここで必要な分詞構文にはならない。
- (127) 正解①: 観客に大きな拍手を受け、その歌手は深く感動して感謝を表そうとした。
解説: 主語 he は move する側ではなく「感動させられた」側なので、過去分詞 moved を用いる。Deeply moved は Being deeply moved の Being を省略した形。

6-6 副詞節と分詞構文の書き換え

6-6-1 時—when / while

(128) 正解②: 通りを歩いていると、私は旧友に会った。

解説: 副詞節と主節の主語がともに I なので、接続詞 When と主語 I を省略し、walk を現在分詞にする。I が walk するという能動関係なので Walking along the street となる。

(129) 正解③: バスを待っている間、彼女は本を読んだ。

解説: While 節と主節の主語がともに she なので、While she was を省略して分詞構文にできる。she が wait するという能動関係なので Waiting for the bus が正しい。

6-6-2 理由—because / as / since

(130) 正解①: 答えを知っていたので、彼はすぐに手を挙げた。

解説: Because 節と主節の主語がともに he なので、Because he を省略し、know を現在分詞にする。he が know するという能動関係なので Knowing the answer となる。

(131) 正解②: 長旅の後で疲れていたの、彼女は早く寝た。

解説: As 節と主節の主語がともに she で、she 自身が feel するという能動関係である。したがって、現在分詞 Feeling tired ~ が理由を表す分詞構文となる。

6-6-3 条件—if

(132) 正解②: 次の角を左に曲がれば、郵便局があります。

解説: If 節と主節の主語がともに you なので、If you を省略して turn を現在分詞にする。Turning to the left ~ が「左に曲がれば」という条件を表す。

6-6-4 譲歩—though / although

(133) 正解①: その仕事が難しいと分かっている

たけれども、彼は引き受けることにした。

解説: Although 節と主節の主語がともに he なので、Although he を省略し、know を現在分詞にする。he が know するという能動関係なので Knowing that ~ となる。

(134) 正解②: 自分が間違いを犯したことを認めたとけれども、彼女は決定を変えることを拒んだ。

解説: Although 節と主節の主語がともに she で、she が admit するという能動関係である。したがって Admitting that ~ が譲歩を表す分詞構文となる。

6-6-5 連続する動作

(135) 正解③: 手紙を開けてから、彼はそれを注意深く読み始めた。

解説: 「手紙を開ける」が「読み始める」より先に完了していることを明確にするため、having + 過去分詞を用いる。したがって Having opened the letter が適切。

6-6-6 否定の分詞構文

(136) 正解②: 何と言えよ分かからなかったの、私は黙ったままだった。

解説: Because 節と主節の主語はともに I で、did not know を分詞構文に直すときは not を分詞の直前に置く。したがって Not knowing what to say となる。

6-6-7 完了分詞構文

(137) 正解③: 宿題を終えてから、彼はサッカーをしに出かけた。

解説: 「宿題を終える」は「出かける」より前に完了しているので、完了分詞構文 having + 過去分詞を用いる。したがって Having finished his homework となる。

(138) 正解③: 鍵をなくしてしまったので、彼女は家に入れなかった。

解説: 「鍵をなくす」が「家に入れなかった」より前に起きているので、Having lost her

key とする。her key が lost されるのではなく she が lose するので能動形を用いる。

6-6-8 受動態の分詞構文

(139) 正解②: 遠くから見ると、その山は眠っている動物のように見える。

解説: the mountain は see する側ではなく「見られる」側なので、過去分詞 Seen を用いる。When the mountain is seen ~ の When + 主語 + be 動詞を省略した形と考えられる。

(140) 正解②: その知らせに衝撃を受けたので、彼女は何も言えなかった。

解説: she は shock する側ではなく「衝撃を受けた」側なので、過去分詞 Shocked を用いる。Because she was shocked ~ の Because she was を省略した形。

6-6-9 完了・受動の分詞構文

(141) 正解③: 嵐で損傷した後、その橋は通行止めになった。

解説: 「橋が損傷を受ける」は受動で、さらに「通行止めになる」より前に完了している。そのため having been + 過去分詞を用い、Having been damaged とする。

6-6-10 there be 構文—there being

(142) 正解①: 深夜以降はバスの運行がなかった。私達は歩いて帰らなければならなかった。

解説: there be 構文を分詞構文にすると there being ~ となり、形式上の there を残す。As there was no bus service ~ は There being no bus service ~ となる。

(143) 正解③: 電車に空席がなかった。私達はずっと立たなければならなかった。

解説: As there were ~ という there be 構文を分詞構文にする場合、there を省略せず there being とする。したがって There being no empty seats ~ が正

しい。

6-6-11 As it was ~—主節と同じ主語

(144) 正解③: 簡単な英語で書かれていたので、その本は初心者にも理解しやすかった。

解説: As 節の it は主節の the book を指し、実質的に主語が同じなので it を残す必要はない。book と write は受動関係なので、Written in simple English とする。

(145) 正解②: 結果にひどく失望していたので、彼女はしばらく何も言わなかった。

解説: she は disappoint する側ではなく「失望した」側なので、過去分詞形容詞 Disappointed を用いる。Being deeply disappointed の Being を省略した形と考えられる。

6-6-12 天候を表す it—独立分詞構文

(146) 正解①: 雨が激しく降っていたので、私たちは家にいることにした。

解説: 天候を表す it は主節の we とは異なるため、省略せず意味上の主語として残す。it が rain するという能動関係なので、It raining heavily という独立分詞構文になる。

(147) 正解②: 前夜に激しく雨が降ったので、道路はひどくぬかるんでいた。

解説: 天候の it は主節の the road と異なるので残し、さらに「雨が降った」のは主節より前なので完了形にする。したがって It having rained heavily ~ となる。

6-6-13 否定の完了分詞構文

(148) 正解②: 何年も彼に会っていなかった。私は最初彼だと分からなかった。

解説: 「会っていなかった」が「分からなかった」より前から続く内容なので、完了分詞構文を用いる。否定語 not を having の前に置き、Not having seen him ~ とする。

(149) 正解③: 宿題を終えていなかった。彼女は友人たちと外出できなかった。

解説：否定＋主節より前なので、語順は not＋having＋過去分詞となる。したがって Not having finished her homework が正しく、Having not finished とはしない。

- (150) 正解③：日程変更を知らされていなかったため、彼は間違った時間に到着した。

解説：「知らされていなかった」は否定＋受動＋主節より前なので、not having been＋過去分詞を用いる。したがって Not having been informed ～ となる。

6-6-14 形容詞で始まる分詞構文—being の省略

- (151) 正解②：長旅の後で疲れていたため、彼女はまっすぐ寝床へ行った。

解説：Because she was tired ～ は Being tired ～ とでき、状態を表す being は省略されることが多い。したがって、形容詞 Tired だけで分詞構文を始められる。

- (152) 正解①：若かったけれども、彼にはチームを率いるだけの十分な経験があった。

解説：Although he was young の主語 he と be 動詞を省略すると、Young, he ～ という形になる。形容詞で始まる分詞構文では being が省略された形と考える。

- (153) 正解③：試験のことが不安だったので、私は前夜よく眠れなかった。

解説：Because I was anxious ～ は Being anxious ～ と書き換えられ、Being を省略できる。したがって、状態を表す形容詞 Anxious が正しい。

- (154) 正解②：最初は緊張していたけれども、彼女はすばらしい発表をした。

解説：Although she was nervous ～ から主語 she と be 動詞を省略し、形容詞 Nervous を残す。ここでは譲歩「緊張していたけれども」を表す。

6-7 後置の分詞構文

6-7-1 付帯状況

- (155) 正解②：彼女は窓辺に座り、庭を眺めていた。

解説：and looked を分詞構文に直し、主節の主語 She が look するという能動関係なので現在分詞を用いる。主節, looking ～ で「～しながら」という付帯状況を表す。

- (156) 正解②：彼は友人と話しながら、通りをゆっくり歩いた。

解説：主節の He と talk の意味上の主語が同じなので、and he を省略して現在分詞 talking にする。主節と同時に行為される動作を表している。

6-7-2 結果

- (157) 正解②：嵐はいくつかの家を破壊し、その結果、多くの人々を家のない状態にした。

解説：主節の出来事から生じた結果を、後置の現在分詞で表している。The storm が leave するという能動関係なので、leaving many people homeless とする。

- (158) 正解①：その子どもはグラスを落とし、その結果、それをいくつかの破片に割った。

解説：グラスを落としたことによって生じた結果を、主節, V-ing の形で表す。The child の動作の結果として break するので、現在分詞 breaking を用いる。

6-7-3 手段・方法

- (159) 正解③：彼女は毎日英語を練習することで、英語力を向上させた。

解説：by practicing の by を省き、現在分詞を後置して主節の動作を行う手段・方法を表している。主語 She が practice するので、現在分詞 practicing を用いる。

- (160) 正解②：彼は異なる観点から問題を見ることで、その問題を解決した。

解説：by looking at ～ の内容を後置の

分詞構文で表しており、「どのように解決したか」という方法を示す。He が look するので、現在分詞 looking が正しい。

6-7-4 意味上の主語を伴う分詞構文

(161) 正解②:彼はベンチに静かに座り、目を地面に向けていた。

解説:主節の主語 He と分詞の意味上の主語 his eyes が異なるので、his eyes を残す独立分詞構文にする。eyes と fix は受動関係なので、his eyes fixed ~となる。

(162) 正解②:彼女はドアのそばに立ち、腕を胸の前で組んでいた。

解説:主節の She とは別に her arms が folded の意味上の主語なので、her arms を残す。arms は「折りたたまれる・組まれる」側なので、過去分詞 folded を用いる。

(163) 正解①:その老人は道をゆっくり歩き、犬がそのそばをついてきていた。

解説:主節の主語 The old man と分詞の意味上の主語 his dog が異なるため、his dog を残す。dog が follow するという能動関係なので、his dog following him となる。

(164) 正解②:私たちは会議を朝早く開くことにした。その意図は正午までにすべてを終えることだった。

解説:and the idea was ~ を独立分詞構文にし、主節とは異なる意味上の主語 the idea を残す。be 動詞を現在分詞にして、the idea being to finish ~ とする。

7 独立分詞構文

7-1 名詞+doing

(165) 正解③:その夜は雨が降っていたので、私たちは月を観察できなかった。

解説:天候を表す it は主節の we とは異なる意味上の主語なので、省略せず残す。また rain は主節より前の内容なので、It having rained ~という独立分詞構文に

なる。

(166) 正解①:その犯罪について利用できる情報がなかったので、警察はマスメディアに協力を求めた。

解説:there be 構文の独立分詞構文は there being ~ の形になる。There being no available information ~ で「利用できる情報がなかったので」の意味。

(167) 正解①:ほかの条件が同じなら、最も単純な説明が最善である。

解説:Other things being equal「ほかの条件が同じなら」は独立分詞構文の慣用表現である。Other things が意味上の主語、being equal がその状態を表す。

(168) 正解①:前夜に雨が降ったので、道路はぬかるんでいた。

解説:天候を表す it は主節の the road とは異なるため残し、「雨が降った」のは主節より前なので完了形にする。したがって It having rained ~ が正しい。

(169) 正解③:雨天だったので、野球の試合は中止された。

解説:主節の the baseball game とは異なる意味上の主語 The weather を残し、The weather being rainy とする。Because などの接続詞は独立分詞構文では不要である。

(170) 正解①:町にはバスの運行がなかったので、彼らはタクシーを使わなければならなかった。

解説:空所の後ろに being があるため、there be 構文の独立分詞構文 There being ~ を完成させる there を選ぶ。There being no bus service ~ で理由を表す。

(171) 正解①:バスがなかったので、私たちはずっと歩かなければならなかった。

解説:there be 構文を独立分詞構文にす

ると、be 動詞を現在分詞にして There being ～となる。there は形式上の主語に相当するため省略しない。

7-2 名詞+done

(172) 正解②:すべてを考慮しても、彼女にはまだ非がある。

解説:All things considered「すべてを考慮すると」は慣用的な独立分詞構文である。all things は「考慮される」側なので、過去分詞 considered を用いる。

(173) 正解②:すべてを考慮すると、それについて疑いの余地はない。

解説:all things と consider は受動関係なので、All things considered とする。もとは If all things are considered などに相当する独立分詞構文。

(174) 正解②:すべてを考慮すると、私たちはよい仕事をした。

解説:All things considered は「すべての事情を考慮すると」の意味の定型表現。things が consider されるので、現在分詞 considering ではなく過去分詞 considered を用いる。

(175) 正解④:すべてを考慮に入れると、彼女の人生は幸福なものだ。

解説:take A into consideration「A を考慮に入れる」を受動関係で表し、All things を意味上の主語として残す。したがって All things taken into consideration となる。

(176) 正解②:すべてを考慮すると、それが間違っているとは言えない。

解説:これも All things considered「すべてを考慮すると」という独立分詞構文の慣用表現。All things と consider が受動関係なので considered が正しい。

7-3 完了・受動態の独立分詞構文

(177) 正解②:急いで書かれたので、この手紙

には多くの間違いがある。

解説:this letter は write される側で、さらに「書かれた」ことが「間違いがある」より前なので、完了+受動(having been done)を用いる。したがって Having been written in haste となる。

8 分詞構文の特殊形

8-1 as S

(178) 正解②:丘の上に建っているので、そのレストランはすばらしい眺めを望める。

解説:V-ing as S do は分詞構文を強調する形で、as 以下の S は主節の S と同じものを指す。do は前の V-ing の動詞を受ける代動詞で、Standing は stand を表す。主語は the restaurant = it なので、Standing as it does ～となる。

(179) 正解④:田舎に住んでいるので、私はめったに訪問客がない。

解説:V-ing as S do は分詞構文を強調する形で、as 以下の S は主節の S と同じものを指す。do は前の V-ing の動詞を受ける代動詞で、Living は live を表す。主語は I なので、Living as I 解説 ～となる。

(180) 正解②:駅の近くに位置しているので、そのホテルは観光客にも出張者にも便利である。

解説:過去分詞 as S be ～ は、受動・状態を表す分詞構文を強調する形で、as 以下の S は主節の S と同じものを指す。Situated はもとの the hotel is situated ～ の is situated に対応するため、do ではなく be 動詞を用いる。the hotel = it なので、Situated as it is ～となる。

(181) 正解③:高い山々に囲まれているので、その村は冬の間は行くのが難しい。

解説:過去分詞 as S be ～ は、受動・状態を表す分詞構文を強調する形である。

Surrounded はもとの the village is surrounded by ~ の is surrounded に対応するため、be 動詞を用いる。the village=it なので、Surrounded as it is ~となる。

8-2 while / though + 分詞

(182) 正解③:あなたの計画が理にかなっていることは認めるが、それでも実行するのは非常に難しいと思う。

解説:while admitting ~「~を認める一方で」の形で、主節の主語 I が admit という能動関係である。接続詞 while を残した分詞構文なので、現在分詞 admitting を用いる。

9 慣用的な分詞構文

9-1 generally / frankly / strictly speaking

(183) 正解①:一般的に言えば、犬は人間の最良の友と呼ばれている。

解説:generally speaking「一般的に言えば」は慣用的な分詞構文で、文全体に対する話し手の判断を表す。speaking は固定された形なので、spoken などにはしない。

(184) 正解②:率直に言えば、私は彼の計画がうまくいくとは思わない。

解説:frankly speaking「率直に言えば」という慣用表現を用いる。主節の主語との文法的な一致を必要としない独立した分詞構文である。

(185) 正解③:厳密に言えば、この表現は文法的に正しくない。

解説:strictly speaking「厳密に言えば」は頻出の慣用的分詞構文である。strictly は副詞として speaking を修飾し、全体で文に対する話し手の判断を表す。

9-2 judging from / by

(186) 正解①:彼女の外見から判断して、私は彼女を客室乗務員だと思った。

解説:judging from A「A から判断すると」は慣用的な分詞構文である。主節の主語 I との形式的な主語一致にかかわらず、固定的に現在分詞 Judging を用いる。

(187) 正解②:彼の言ったことから判断すると、彼はその問題についてほとんど知らないようだ。

解説:judging by A「A から判断すると」という慣用表現を用いる。judged ではなく現在分詞 Judging が固定的に使われる点に注意する。

9-3 considering / given

(188) 正解②:疲れていたことを考えれば、私はかなり上手にピアノを弾くことができた。

解説:given the fact that ~「~という事実を考慮すれば」の形で、given は「~を考慮すると」の意味の前置詞的表現である。したがって過去分詞形の Given を用いる。

(189) 正解③:あなたがアウトドア好きであることを考えると、田舎ではなく都会に住むことにしたのは本当に驚きだ。

解説:considering A「A を考慮すると・Aのことを考えると」という慣用的な分詞構文を用いる。ここでは your love of the outdoors を目的語にとるので Considering が正しい。

(190) 正解②:それを禁じる法律がないことを認めるとしても、それでも私はそれが不道德だと思う。

解説:granting that S+V「~だと認めるとしても」は譲歩を表す慣用表現である。that 節を後ろにとり、「仮に~を認めても」の意味を表す Granting を用いる。

(191) 正解②:疲れていたことを考えれば、私はかなり上手にピアノを弾くことができた。

解説:given that S+V「~であることを考慮すれば」の形で、given that は接続詞的に用いられる。したがって Given that I

was tired が正しい。

- (192) 正解①:彼が高所恐怖症であることを考えると、スカイダイビングを始めたと聞いて私は驚いた。

解説:given A「A を考慮すると」は、事情・条件を前提として示す表現である。his fear of heights という名詞句を直接後ろにとるので、Given が適切。

9-4 taking ~ into consideration / account

- (193) 正解②:彼の年齢を考慮すると、彼はその競技で驚くほどよい成績を収めた。

解説:take A into consideration「A を考慮に入れる」を分詞構文として用いるため、現在分詞 Taking にする。Taking his age into consideration で「彼の年齢を考慮すると」の意味。

- (194) 正解②:これらすべての要因を考慮して、私たちはその計画を延期することにした。

解説:take A into account「A を考慮に入れる」という熟語を分詞構文にした形である。主節の we が take するという能動関係なので Taking all these factors into account とする。

9-5 speaking / talking of

- (195) 正解②:デジタルカメラと言えば、何がお勧めですか。

解説:speaking of A「A と言えば・A の話 と言えば」は話題を導入・転換する慣用的な分詞構文である。speaking of が一まとまりの表現なので Speaking を用いる。

- (196) 正解④:旅行と言えば、オーストラリアへ行ったことがありますか。

解説:speaking of ~「~ と言えば」という定型表現で、主節の主語 you とは無関係に用いられる。Spoke や My speaking ではなく、現在分詞 Speaking が正しい。

- (197) 正解②:田中さんと言えば、最近彼に会

いましたか。

解説:talking of A「A と言えば」は speaking of A と同様、話題を提示する慣用表現である。Mr. Tanaka を後ろにとるため、Talking of が正しい。

9-6 weather permitting

- (198) 正解①:天気が許せば、私たちはテニスをします。

解説:weather permitting「天気が許せば」は If the weather permits に相当する独立分詞構文である。weather が permit するという能動関係なので、現在分詞 permitting を用いる。

- (199) 正解③:天気が許せば、私は行きます。

解説:weather permitting は「天気がよければ」の意味で、意味上の主語 weather を残した独立分詞構文である。接続詞 if や 定形動詞 permits を用いず、名詞 + V-ing の形にする。

9-7 depending on

- (200) 正解①:誰から電話がかかってきたかによって、携帯電話の着信音を変える方法を教えてくださいませんか。

解説:depending on A「A によって・A 次第で」は、条件によって内容が変化することを表す分詞表現である。ここでは who's calling me を on の目的語としてとる depending on が適切。

9-8 assuming / supposing that

- (201) 正解②:彼の話が本当だと仮定すると、次に私たちはどうすべきだろうか。

解説:assuming that S + V「~だと仮定すると」は条件を表す慣用的な分詞構文である。that 節を後ろにとるので、現在分詞 Assuming を用いる。

- (202) 正解②:仮にその仕事を提示されたとしたら、あなたは引き受けますか。

解説:supposing that S + V「もし~だと

分詞

したら」は仮定・条件を表す表現である。
that 節を導く現在分詞 Supposing が正しい。

9-9 provided / providing that

(203) 正解①: 天気がよいままであれば、私たちは明日の朝早く出発します。

解説: provided that S+V「～という条件で・もし～なら」は条件を表す接続詞的表現である。ここでは that 節を後ろにとる過去分詞形 Provided を用いる。

(204) 正解②: 注意して運転するという条件で、私の車を使ってもよい。

解説: provided that ～「～という条件で」は if と同様に条件を表す。空所の後ろに that 節が続いているので、provided が正しい。

9-10 granting / granted that

(205) 正解①: 彼の説明が正しいと認めるとしても、いくつかの疑問は依然として未解決である。

解説: granting that S+V「～だと認めるとしても」は譲歩を表す慣用表現である。that 節を目的語にとる現在分詞 Granting を用いる。

(206) 正解②: 彼女にほとんど経験がないことを認めるとしても、彼女はその状況に実にうまく対処した。

解説: granted that S+V「～だとしても・～を認めるとしても」は譲歩を表す接続詞的表現である。ここでは過去分詞形 Granted を用いる。

10 with+名詞+補語

10-1 with+名詞+done

(207) 正解①: 彼は腕を組んでソファーに横になり、やがて眠りについた。

解説: with+O+done「O が～された状態で」の形で、arms と fold は「腕が組まれている」という受動・状態の関係である。したが

って with his arms folded とする。

(208) 正解①: ジョンは何か奇妙なものに目をじっと向けたまま立っていた。

解説: with+O+done の形で、his eyes と fix は「目が何かに向けられている」という受動・状態の関係である。したがって過去分詞 fixed を用いる。

(209) 正解③: 彼はとても疲れていたのも、目を閉じてソファーに横になっていた。

解説: with の後ろでは 名詞+補語の語順をとり、his eyes と close は受動・状態の関係である。したがって with his eyes closed が正しく、his closed eyes とは構造が異なる。

10-2 with+名詞+doing

(210) 正解③: 彼女は涙を頬に流しながら、そこに立っていた。

解説: with+O+doing「O が～している状態で」の形で、tears が run するという能動関係である。したがって、現在分詞 running を用いる。

(211) 正解②: 夏が近づいているので、医療専門家たちは日焼けを防ぐための勧告を出している。

解説: with+名詞+doing は状況・背景を表し、summer が approach するという能動関係である。したがって With summer approaching で「夏が近づくにつれて」の意味になる。

(212) 正解②: 多くの学生がおしゃべりしていたので、教授の話を聞き取るのは難しかった。

解説: with の目的語 many students が chat するという能動関係なので、補語には現在分詞 chatting を用いる。with+O+doing で付帯状況・原因を表している。

(213) 正解③: あなたがそんなふうに私を見ていて、どうしてくつろげるでしょうか。

解説: with の後ろでは 名詞・代名詞+

doing の形をとり、you が watch するという能動関係なので you watching とする。動名詞の意味上の主語の your とは区別する。

いだ状態で」となる。

- (214) 正解③: 和平交渉は再び失敗し、双方がその失敗について相手を非難した。

解説: with + O + doing の形で、both sides が blame するという能動関係である。したがって現在分詞 blaming を用い、blame A for B「BについてAを非難する」となる。

10-3 with + 名詞 + 形容詞

- (215) 正解①: 彼女は目を開けたまま窓辺に座り、起こったことについて考えていた。

解説: with + 名詞 + 形容詞で「～が…の状態で」という付帯状況を表す。open はここでは動作ではなく his eyes の状態を表す形容詞なので、with her eyes open とする。

- (216) 正解③: 口に物をいっぱい入れたまま話してはいけません。

解説: with の後ろには your mouth + 補語が続き、空所には mouth の状態を表す形容詞が必要である。with your mouth full「口をいっぱいにして」となるので full を用いる。

10-4 with + 名詞 + 副詞

- (217) 正解①: 彼はテレビをつけたままソファで眠ってしまった。

解説: with + 名詞 + 副詞で付帯状況を表し、on は「作動して・ついて」という状態を表す副詞である。したがって with the television on「テレビをつけたまま」となる。

- (218) 正解②: 外はとても寒かったのに、彼女はコートを着ないで家を出た。

解説: with + 名詞 + 副詞の形で、off は「身につけていない・外して」という状態を表す。したがって with her coat off「コートを脱